

科目ナンバリング		G-GAIS00 84034 LJ35 G-GAIS00 84034 LJ13									
授業科目名 <英訳>		Imaging Art, Culture and Science Imaging Art, Culture and Science				担当者所属・ 職名・氏名		総合生存学館 特定教授 土佐 尚子			
配当 学年	1-3回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2020・ 後期	曜時限	木5	授業 形態	講義	使用 言語	日本語及び英語
【授業の概要・目的】											
<p>アートはすべての文化に含まれており人間すべてに関わるものである。アートは種々の形態を取りながらすべての文化のアイデンティティに深く関わっている。アートは直接の実利はないものの社会が機能するのに欠かせないものである。アートを学んだ結果はすべての分野で活用でき、その意味で私たちの生活を豊かにしてくれる。アートは最終的に形を成すまでに多くの過程を経る必要がある。他のアーティストによって作られたイメージを学びそれをベースとして自分自身のアートを創作しようとするところから始まる。アートは表現に用いるモノやメディアにはとらわれずその過程自体が重要である。その過程には材料選択や生成方法やイメージの原型などが含まれ、そのいずれにおいてもアーティストの意思が反映される必要がある。そのような過程を経てアートは創造性の伝統や歴史を形作る。アートは数千年のアートの歴史の上に存在している。現存するアートは作られた時の最新のテクノロジーの上に作られている。このクラスで皆さんは、テクノロジーと表現の関係を学び、現在進行形の人々のコミュニケーションに敏感になり、現在の表現テクニックを学び取り、そしてそれらを総合して時代が求めているアートを創作してもらうことになる。</p>											
【到達目標】											
<p>「アート＆テクノロジー」に関する基礎学習 デジタルアート制作を通して日本文化を学んでもらう。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>アートは人の真実を表現する。日本文化・芸術に焦点を当てることにより、皆さんには日本人にのみ理解できるアートではなくグローバルレベルで人々の想像力をかきたてるアートを制作してもらおう。どのイメージもその背景と用いるべき対象が存在する。私たちの脳はイメージをこのようにして把握するため、このことは極めて重要である。これを起点として皆さんには映像アートを制作してもらい、それを通して皆さんの感情を変換し他の人と共有することを学んでもらう。その際に以下の日本文化の特色を理解し使ってもらおう。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1．簡素さや静寂さを好む日本人の性質（わび・さび） 2．日本とアジアの文化の関連 3．神仏習合という独特の宗教 4．俳句、短歌などに見られる日本独自の言語体系 5．日本デザイン（文様、色彩、形状、能、歌舞伎） 6．コンピュータとの会話を通して日本の感性と文化に対する深い理解を得る 											
【履修要件】											
インターネット、メール、word、power pointなどの使用スキル。アートに対する興味を持っていること。											
【成績評価の方法・観点】											
Art work, report, attendance (number of days).											
----- Imaging Art, Culture and Science(2)へ続く -----											

Imaging Art, Culture and Science(2)

More detailed instructions will be provided in class.

[教科書]

土佐尚子 『TOSA RIMPA』 (淡交社)

土佐尚子 『カルチュラルコンピューティング』 (NTT出版)

[参考書等]

(参考書)

(関連URL)

naokotosa.com

[授業外学修(予習・復習)等]

レポートなどの宿題を出すので、それをやってくること。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。